

放課後デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和 6年 3月 27日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ヒトツナ金沢黒田教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		静のお子さまと動のお子さまが同じ空間でも行動出来る声かけや配慮を極力している。	適切であると感じるが(9人以下があるので)当日の子どもの状況や気持ちにより手狭に感じる時がある。天気の良い日は公園に行くなどの工夫が必要と感じる。
	2	職員の配置数は適切である		○	保育士や障がい支援の経験のある方が幸い職員にいます。	正規職員の充足を引き続き図る。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	車いすの御利用は工夫しても難しいところがある。	バリアフリーを希望なさるご利用者様がいらしたときには、真摯に対応し、解決策があるかどうか考える。
	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	職員みんなで考えて全て行うようにしているが未だ未達成と感じる時もある。	左記継続する。
業務改善	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○	年1回を今年度は行っているが、半年に1回でも良いのではとの声もあるので、検討していく。	左記継続する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに公表と共に保護者さまへの告知様式も作成している。	左記継続する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者評価の実績なし	再考してみる。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に行っている。市や県の研修にも参加出来る環境作りをしている。	左記継続する。(月一回目標)
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		毎日のサービス提供記録はもちろんのこと、電子媒体を用いて気軽にお互い発言出来る環境と状況を準備している。	言にくいことをもっと言い合える環境にしたいと思っている。
適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		使用している。	使用しているが、各々に合わせた文言なども追加してゆく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		使用している。	使用しているが、各々に合わせた文言なども追加してゆく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		複数回経験出来る物事や、体験出来る人のバランスが取れるように工夫している。	年長から4年生までの複数人が出来るプログラム作成に努める。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇・平日ではご家族さまの勤務時間への個別対応をしている。土曜は職員不足のため開所に至らない。	個別対応が出来うる時と出来ない時が出てきた。職員の充足が課題である。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		毎回のミーティングで職員それぞれの観察力からの意見を共有するようにしている。	飽きの来ない楽しいプログラムの工夫をしている。静と動の組み合わせ等。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		複数回経験出来る物事や、体験出来る人のバランスが取れるように工夫している。	年長から4年生までの複数人が出来るプログラム作成に努める。
	16	支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		その日のうちには出来かねる状況であるが、出来るだけ当日のうちに話すことはしている。	翌日も同じ職員での勤務がほぼであるため、翌日で大丈夫な話は翌日のミーティングで話すようにする。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		タブレット端末も使用できるようにしてある。紙でのメモも残すようにしている。	タブレットをもう少し上手に使用できるように網羅したい。	

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月に一回行ってはいるが、状況に応じて時期をみじかくしたりしている。	相談支援専門員さんにも、状況の共有をし続ける。
適切な支援の提供	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○		経験年数が多い職員と共に活動の計画作成をしている。	左記継続する
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		同時利用している他のデイさんにも声をかけてもらっている。	やども園との関係もこれから深くなれるといいと思うが、会議の出来る時間帯が各々違うため、難しさを感じる時もある。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		学校とご家族ともに連絡をとって行っている。	前もってのお知らせがほとんどではあるが、今後天候や状況により急な変更が有った浅いの柔軟な対応が課題である。
関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		該当者なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		ご希望がある場合に対応している。	左記継続する。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		該当者なし	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		県や市の研修での受講となっている。	左記継続する。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		公園での遊ぶ際には声をかけ、一緒に遊ぶようにしている。	こどもSOSに登録しようと思っている。児童クラブや児童館は単体でもかなりの人数が居るため、なかなか日中は関わり辛いのが現状である。相互に連絡は取っている状況。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○		調べることから始める。	左記に努める。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		毎日のサービス提供記録はもちろんのこと、電子媒体を用いて気軽にお互い発言出来る環境と状況を準備している。	言いにくいことをもっと言い合える環境にしたいと思っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		いまだ未達成	情報収集から始める。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用時に時間を充分にとり、疑問は解決するように努めている。	運営規定の変更など、変更時に迅速に伝えることが出来るように努める。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		その日のうちになんらかのアクションを。を目標としている。	時間や場所、タイミングを考えながら、ご本人や保護者さまにそう形で少しづつ打ち明けられる環境作りをしていくよう努める。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		コロナもあけたので、そろそろ動き出そうと思っている所である。	昼間のお茶会や土日の造形活動を考えてゆこうと思っている。
33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		その日のうちになんらかのアクションを。を目標としている。	時間や場所、タイミングを考えながら、ご本人や保護者さまにそう形で少しづつ打ち明けられる環境作りをしていくよう努める。	
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		その日のうちになんらかのアクションを。を目標としている。	時間や場所、タイミングを考えながら、ご本人にそう形で少しづつ打ち明けられる環境作りをしていくよう努める。	
35	個人情報に十分注意している	○		採用時研修に個人情報に関する研修をしている。個人情報の取り扱いに関する契約書の取り交わしも従業員としている。	左記継続していく。	

保護者への説明責任等	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		その日のうちになんらかのアクションを。を目標としている。	時間や場所、タイミングを考えながら、ご本人や保護者さまにその形で少しずつ打ち明けられる環境作りをしていくよう努める。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	コロナもあけたので、そろそろ動き出そうと思っている所である。	職員が充足したら考えていく。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		事業所内でこじんまりと行っているが、次年度からは利用者の数が増えるため規模の拡大を考えている。	左記継続していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		事業所内でこじんまりと行っているが、次年度からは利用者の数が増えるため規模の拡大を考えている。	左記継続していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年1回の虐待防止に関する研修を職員で受講している。	左記継続する。
非常時等の対応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		年1回の身体拘束に関する研修を職員で受講している。今のところ該当するお子さまが居ないので実施しては居ない。	該当のお子さまが利用し始めた時に再考する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	該当者なし。	該当する利用者が在所することになった際に対応する。アレルギー対応の研修を職員は受けている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		積極的に記入するようにし、ミーティングにて共有及び再発防止策を職員で考えている。	左記継続する。